

## 『現門真市立図書館及び（仮称）門真市立生涯学習複合施設管理運営等事業に係る提案書』概要

提案者

カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社

「ものづくり」のパイオニア 門真市だからこそできる新しい「まちづくり」  
新たな門真市の「未来が見える」場所を創る

## (1)事業コンセプト

## 門真市の明るい「未来が見える」場所を創る

「周辺地域全体の景観改善」「子育て世代を中心とした人口減少」「図書館・文化会館の利用者層の偏り」など、古川橋駅周辺、門真市全体及び現在の図書館・文化会館の課題から、新しい生涯学習複合施設は以下の3点を目標に掲げることを提案します。

- ① 門真市（古川橋駅周辺）の都市イメージを刷新し、新たなブランドを創る
- ② こどもから大人まで末永く住み続けたいと思えるまちづくりを行う
- ③ 誰もが集える、使える“まちの顔”となる施設を創る

## (2)新しい生涯学習複合施設の目標値

私たちの考える新しい生涯学習複合施設は「未来が見える」場所です。門真市の未来、自分の未来、仲間の未来が明るく輝くように想像できる姿を目指します。そのため、以下5つの定性的な目標掲げます。

- ① 未来の門真市らしさを体現し、市民の誇りとなる
- ② 地域への波及効果を生み出し、連携による新しい価値を創造する
- ③ 他の市町村が羨む門真市らしい新たな魅力を生み出す
- ④ ここにしかない人の生き方・暮らし方を継続的に提案する
- ⑤ 安心・安全な都市生活のモデル像となる

定量的な目標値としては年間来館者100万人及び図書の貸出総数48万冊を掲げます。加えて年間イベント等の活動参加人数も定量目標として設定することで、こども達を中心に多世代が集う“地域のたまり場”、交流人口集積拠点を目指します。

## (3)複合施設の魅力を生み出すサービス

## ■図書館と文化会館の融合

新しい生涯学習複合施設は、図書館及び文化会館のそれぞれの特性である図書の利用、情報の伝達、活動と発表という学びと活動の融合を実現させます。具体的には、市民同士の新たな出会いやコミュニティ育成を行うため、公民館や市民活動センターで活動しているサークルや個人の方が講師となり、市民同士で教え合う参加型市民活動イベントを年間通じて実施していきます。イベントの実施場所においては閉じられた会議室で行うのではなく、館内のオープンな空間で実施することで、活動が参加者以外にも見えることによる、新たな参加者の増加も実現します。

## ■こどもサービスの充実

新しい生涯学習複合施設は、こどもたちの創造性やコミュニケーション能力を育む場所になることを目指します。その為、提供サービスは図書だけに閉じず、知育玩具の導入による中遊びを提供できるプログラムや乳幼児・未就学児など年齢層にあわせた読み聞かせ、また、STEAM教育に代表される未来を切り開く力を身につけられるように、弊社グループ会社が運営する知育スクールと連携し、さまざまな出前授業を実施します。4Fこどもフロアには屋上公園を設置し、遊具による外遊びも可能にします。

## ■周辺との連携

古川橋駅周辺を活性化させるために定期的に生涯学習複合施設と周辺の連携を重視したイベントを開催します。（仮称）古川橋周辺地区まちなか再生推進協議会と連携しながら協業モデルでの開催を計画していきます。具体的には新しい生涯学習複合施設と古川橋駅との間に新設される交流広場をイベント会場として活用し、マルシェなどの企画を行います。



## (4)複合施設の配置計画とデザインに関する考え方

門真市の新しい「未来が見える」施設である生涯学習複合施設は、空間創りにおいてもこれまでの門真市内になかった空間を実現することで、視覚的にも「未来」を感じる施設であるべきです。新しい生涯学習複合施設は他市にはない独自性の高い空間デザインを実現し、施設デザインとしても門真市の「未来が見える」場所にします。その実現にむけて、以下の5点を意識して要件定義を行います。

## ①館内に入った瞬間に驚きと感動が生まれる空間

施設の第一印象は入口に足を踏み入れた瞬間に決まります。視覚的にインパクトのある空間が施設に足を踏み入れた瞬間に目に飛び込んでくるよう、空間デザイン創出を行います。また、空間演出においては自然光と施設の関係性や四季折々の変化と施設の関係性など、自然や周辺と施設が調和することも想定しながら要件定義を行います。利用される方がワクワク感を持って館内を回遊する意匠面での仕組みや仕掛けをパースイメージ等を使用しながら、基本設計から実施設計において分かりやすく要件定義を行います。

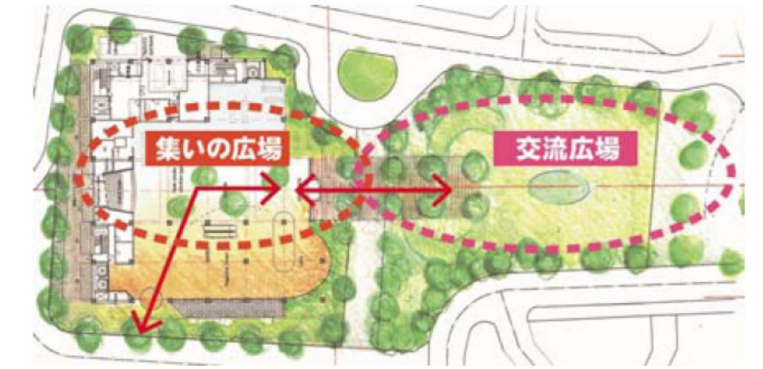


## ②周辺行政施設との結節点になる空間

周辺の公共施設、公共交通機関と新しい生涯学習複合施設との関係を地図に落とし込むと、古川橋駅と周辺公共施設との結節点に生涯学習複合施設があることが分かります。門真市民が目的地へ向かう前、向かった後に必ず新しい生涯学習複合施設を通過するデザインを導入することにより、多くの市民が日常的に訪れる施設を実現します。具体的には施設1F部分にプロムナードを設置、施設館内に周辺と連携する「集いの広場」を創ります。

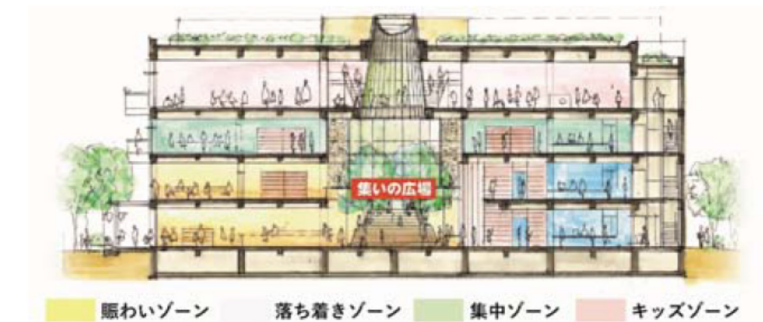
## ③「緑」を効果的に配置し、広場と施設とのつながりを生む空間

古川橋駅周辺は都市部住居密集地であったこともあり、癒しを生む緑化空間が少ない地域になっています。新たにできる駅前広場は芝生化、緑化を進めこれまで古川橋駅周辺になかった、癒しの緑化空間を創りあげることが提案します。その上で、新しくできる生涯学習複合施設内にも駅前広場から続く緑の風景を内装空間にも取り入れ、施設内外が緑でつながる空間デザインを行います。緑は成長する生き物であり、施設を利用することも達や大人と共に成長する象徴となります。



## ④「賑わい」と「落ち着き」と「集中」がフロアごとにデザインされ、多様な利用を促進する空間

新しい生涯学習複合施設は多様な交流を促進する「賑わい」機能と学びと活動が両立して成立する「落ち着き」機能、そして学びを深める「集中」機能が利用イメージを伴って共存し、融合する施設である必要があります。私たちは施設構成を4層と想定した上で、フロアごとの利用者イメージとコンセプトを明確にし、それぞれのフロアにおいて、内装カラーイメージやBGMを効果的に利用しながら、場の雰囲気や「賑わい」と「落ち着き」、そして「集中」の空間デザインを行います。



## ⑤ユニバーサルデザインを採用し、安心安全に利用できる空間

新しい生涯学習複合施設が「未来が見える」場であり、“地域のたまり場”になりえるにはさまざまな来館者が気兼ねなく利用できる施設スペックを備えている必要があります。内装デザインについては法令に基づいたユニバーサルデザインの採用はもとより、ハンディキャップを持つ弊社の社員自らが施設利用におけるストレスチェックを行うなど、当事者意識を持った空間デザインを行います。

※複合施設の配置計画やデザインに対する考え方は、運営者観点によるデザインポリシーを提示したものであり、詳細は門真市が別途委託する基本設計者と協議しながら決定していきます。